

時間割コード	G2B45103	開講年度	2026				
授業題目	時について考えるゼミ				担当教員	安達 弘通	
英文授業名	'Toki ' Seminar						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・5時限	対象学生	
講義室	共通教育36講義室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	大学DP						
	的確に情報を収集し、理解し、発信する力				時について多角的に考えられるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	時に関連した話題（近代以降の科学や思索の話が中心）をいくつか取り上げて授業をおこなう。基本的に教員による講義と受講生主体のグループワークとを隔週でおこなってゆく。対象学生は文理所属を問わない。						
(5)授業のキーワード	時；コミュニケーション、グループワーク、ピアレビュー						
(6)授業計画	以下の各テーマに2週ずつをあてて進めてゆく。 ・近代科学における時 ・機械仕掛けの宇宙と神のゆくえ ・物質界と精神界 ・暖かな宇宙 ・高次元の世界 ・心のなかの時の迷宮 期末に発表会をおこなう。						
(7)成績評価の方法	授業への積極的な参加を前提とし、授業内の活動（ワークシートの作成、グループワーク）と期末発表によって評価する。						
(8)成績評価の基準	授業内の活動および期末発表において、(i) 課題の把握が適切であり、(ii) 主体的な取り組み、探究心、向学心が垣間見られ、(iii) 自分の考えや感想が述べられており、(iv) 教員を感心させる要素があれば「卓越している」。4つのうち3つまでであれば「かなり上にある」。2つまでであれば「やや上にある」。1つまでであれば「水準にある」。						
(9)事前事後学習の内容	テキストの予復習。ワークシートの作成。期末発表に向けた準備。 この授業は90時間の学修を必要とする内容であり、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(10)履修上の注意	1. ノートPCを持参すること（グループワークで使用）。 2. 配布物、提出物のやり取りはeALPSでおこなう。 3. 期末発表会は試験期間後におこなう予定。参加できない場合、単位は認定されない。発表会の日時を含め、ガイダンス資料であらためて詳細を確認すること。						
(11)質問,相談への対応	授業中、授業後（メールも可）						
(12)授業への出席	授業の全ての回に出席することを基本とする。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	活動の性質上、グループワークは「学修の補充」をおこなうことができない。「学修の補充の対象とする事由」に該当する場合であっても、グループワークへの不参加が3回以上ある場合、単位は認定できない。						
【教科書】	安達弘通、時に挑む科学と文学、学術研究出版、¥1,500+税						
【参考書】	指定しない						